

職業能力開発
の
現場から

生きた技術をもった 職業人となるために



埼玉県立川口高等技術専門学校

創 立 ● 1952年10月「埼玉県川口公共職業補導所」開所
所 在 地 ● 埼玉県川口市青木4-4-22
訓練コース ● 情報処理科／2年、空調システム科／2年、機械科（デュアルシステム）／1年、ビル管理科／6ヵ月

○ 実践的な学習内容で、
現場で使える技術を身につける

川口高等技術専門学校は、上記に示す4科の職業訓練のほかに、在職者を対象とした技能講習などを開いている。情報処理科と空調システム科は訓練生の約8割が高校の新卒者。情報処理科は、プログラム設計やネットワークに関する知識を、空調システム科は、エアコン設備の据付け工事やビルの設備などを学ぶ。

情報処理科は時代を反映してか応募者が多いが、空調システム科は応募者が比較的少ない。ただし、空調を専門にしている大学や専門学校が少ないため、企業からは多くの求人が寄せられる。

「冷凍機械責任者など、空調技術に関わる国家資格の合格率が極めて高いのが当校の特徴です。空調システム科は設置から30年近くの実績があり、試験対策のノウハウなどが豊富にあります。」

最近ではエコキュート、いわゆる大気熱を利用してお湯を沸かすという、環境に配慮した給湯システムが普及しはじめました。このシステムにも空調の技術が応用でき、エコキュートに携わる修了生も増えていきます」と同校訓練担当部長の関根理作さんは話します。

機械科の訓練生は30代前半くらいまでが多い。8ヵ月間専門学校で機械加工などを学び、その後4ヵ月間は企業実習となる。ビルの保守管理者をめざすビル管理科は、再就職をめざす中高年齢者が多いが、この年齢層の

就職は厳しい。

「40代、50代は就職先がなかなか見つからないのが現実です。そこで当校では、資格試験に特化した学習カリキュラムを組んでおり、半年間の学習で、電気工事士やボイラー技師など複数の資格が取れるよう指導しています」（関根部長）

訓練内容は、指導員を企業研修に出す、実際に働いている修了生の声を聞くなどして、常に見直している。訓練生は実践的な学習や、豊富な実習用機器に触れて技術を身につける。同校はこれまで実力ある修了生を数多く送り出しており、企業の信頼も厚い。

「今、企業は技術者を一から育てる余裕がありません。基礎をしっかり押さえた人が欲しいという声はよく聞きます」（関根部長）

○ 地道な努力が大事

鑄物の町として知られる川口市。川口市は東京都心に近いため、大手企業を目指す訓練生が多いが、地元の鑄物工場や、それらを加工する工場などに就職を希望する訓練生も増えてきた。

就職支援は、履歴書の書き方から校長を交えての面接指導、ジョブ・カード^(*)の発行、キャリア・コンサルタントへの相談など、きめ細かい。2年制コースでは、1年次に3〜5日くらいの期間でインターンシップを設けている。ごく短期間だが、インターンシップが終わると訓練生の顔つきが変わってくるという。

企業は採用したい人材として、コ

ミュニケーション能力を求めることが多いと訓練担当課長の田口次郎さんは話す。

「どんな仕事をするにも共同作業は必ずあります。授業では、グループで作業を進める課題も出すようになっています」

最後に専門学校をめざしている人へのメッセージをいただいた。

「技術、資格を身につけていれば、たとえ次の仕事を見つけないことになっても、そう難しいことではないと思います。企業が知りたいのは、会社のためにあなたは何かができるのか。実践的な技術を身につけて仕事をしてもらいたいと思います」（関根部長）

「華々しい世界ではないかもしれませんが、技術というものは自分の生活を下支えしてくれます。真面目にやっていたことは報われます。技術を身につけると地道に努力している人を育てていきたいと思えます」（田口課長）



(*) ジョブ・カード制度は、求職者の職務経歴や学習歴、職業訓練の経験、免許・資格などを「ジョブ・カード」と呼ばれる書類にとりまとめ、就職活動やキャリア形成に活用する制度。2008年にスタートした。